



## 第1回 Z-GIS ウェビナーin あぐラボ 100名が視聴！

### Z-GIS のユーザーに活用事例を聞きました！！

#### 多くのユーザーが参加！

全農は第1回 Z-GIS ウェビナーin あぐラボを、Z-GIS を既にご利用いただいているユーザー向けに情報を配信し、今後の活用に役立てていただく目的で開催しました。新型コロナウイルスが猛威を振るい、集合型の研修会や展示会の開催が難しい昨今ですが、Zoom と Youtube を使った生配信によって、多くの利用者に情報をお届けできました。今回はウェビナーでお話をいただいた 2 名の生産者の利用方法を紹介します。

#### ユーザーによる活用事例紹介

##### 宮本農産 宮本健一氏

石川県の宮本農産は、米とイグサを栽培しています。宮



本健一氏は元々 Excel で日々記録していた栽培履歴をマッピングしたいという思いから、Z-GIS の導入を決めました。栽培履歴だけでなく、圃場の状況（草が多い、深い等）を Z-GIS に記録し、家族と情報を共有できるようにしています。

また、今後は地主の管理に注力したいと考えています。地域の圃場を Z-GIS に登録し、対象圃場の耕作者の情報（名前、年齢等）を記録することによ

り、農地の引継ぎが円滑にできるので、農協等も含め、地域が一体になって取り組むことが重要と考えています。

##### 高橋農園 高橋敦士氏

埼玉県の南部に位置する高橋農園は、サツマイモ（ベニアズマ、ベにはるか等）を栽培しています。サ



ツマイモが日常的に食される東南アジア（タイ、シンガポール等）への輸出も検討しています。

高橋氏は就農当初から Excel や他社システムを用いて栽培管理をしていました。しかし、他社システムのサポートが終了したため、代替となるシステムとして Z-GIS を導入しました。土壌処理を実施した日や定植日、栽培中の農薬散布履歴、大まかな収量や作柄等を Z-GIS に入力しています。今後は、Z-GIS を周辺地域の農家に広め、地域全体で Z-GIS を使い、情報共有を図りたいと考えています。

※QR をスマホ等で読み込むことにより、ウェビナーを Youtube で見る事が可能です。

